



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

遺伝子銃を用いたCTLA4-Ig遺伝子導入心移植の免疫寛容誘導に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 義雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/476

はしがき

心臓移植の一年生着率はおおよそ80%と言われており、またその急性拒絶反応を乗り越えても、多くの症例で慢性拒絶反応に分類される冠動脈狭窄により臓器廃絶となることが問題点となっている。このような急性慢性拒絶反応を制御するためには、その免疫抑制戦略が重要となる。最近ではドナー抗原に反応してくるヘルパーT細胞のみを不活化しドナー特異的な免疫寛容誘導を起こすことのできる可能性を持ったCTLA4-Ig融合タンパクを用いた臨床試験が米国では進行している。CTLA4分子自体は、本来ヘルパーT細胞上に発現してくるもので移植抗原を認識して活性化するとき必要にヘルパーT細胞に二次刺激に関与するもので、それをCTLA4-Ig融合タンパクによって阻害すると移植抗原特異的に反応するヘルパーT細胞を免疫寛容状態にすることができ、ドナー特異的な免疫抑制状態を得られるものと期待される。今回、我々はこの分子の遺伝子を臓器自身に導入することで、移植臓器に特異的な免疫寛容を誘導することを目的とした。

研究組織

研究代表者：森 義雄 (岐阜大学医学部附属病院助教授)
研究分担者：岩田 尚 (岐阜大学医学部附属病院講師)
研究分担者：廣瀬 一 (岐阜大学医学部教授)
研究分担者：高木寿人 (岐阜大学医学部講師)

研究経費

平成11年度 11,200千円
平成12年度 3,200千円
計 14,400千円

研究発表

- (1)学会発表等
- (2)口頭発表

Y. Umeda, H. Hirose, S. Yoshikawa, Y. Matsuno, Y. Fukumoto, T. Nitta, Y. Iida, H. Takagi, Y. Mori, D. Liddicoat, J. Miyazaki, A. Kosugi, and H. Iwata : Non-viral gene gun mediated CTLA4Ig-gene transfer for modification of donor organs, XVIII International Congress of the Transplantation Society, August 27, 2000

- (3)出版物

Y. Umeda, H. Hirose, S. Yoshikawa, Y. Matsuno, Y. Fukumoto, T. Nitta, Y. Iida, H. Takagi, Y. Mori, D. Liddicoat, J. Miyazaki, A. Kosugi, and H. Iwata : Non-viral gene gun mediated CTLA4Ig-gene transfer for modification of donor organs, 2001, Transplantation Proceedings, 33 ; in press